

(別添 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価項目

作成日 平成22年1月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2792700029		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家大正		
所在地	〒551-0012 大阪市大正区平尾3-14-8 (電話) 06-6556-3921		
評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	2009年12月11日	評価確定日	平成22年2月5日

## 【情報提供票より】 (平成21年11月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤	9人, 非常勤 15人, 常勤換算 15.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	138,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	(有) (270,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (130,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

### (4) 利用者の概要 (11月13日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名	
要介護1	5	要介護2	7			
要介護3	5	要介護4	0			
要介護5	1	要支援2	1			
年齢	平均	71.4歳	最低	68歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤吉医院、北斗クリニック、鳥羽歯科医院、小正医院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年に開設された地域密着型グループホームである。入居者を個人として尊重し、その人らしい生活の継続を家族、地域と共に支えている。日常生活においては、残存機能が最大限活かされた支援がなされている。家庭的な雰囲気の中でその人らしさを継続するために、なじみのものに囲まれ、入居者が安心して生活できるようになっている。商店街の中に立地し、入居者は毎日買い物に出かけ、地域住民との交流がなされている。2か月に1回、運営推進会議が開かれて情報交換がなされている。地域情報を収集収集した結果、地域で開催されている救急救命講習会に個人で参加するような、救命意識の高い職員も多い。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者が交代してから評価受けるのは今回が初めてであった。今回の結果については職場会議で報告し、課題については、改善策を検討して実施する予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	受審に伴い、外部評価について全体ミーティングで説明し、全職員が各自で自己評価を行った。管理者が結果を集約して作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2か月に1回開催されている。参加者は家族、職員、民生委員、自治会長、管理者などである。会議内容としては、施設からの報告やそれに伴う話し合いが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居契約の時、家族の意向の確認がされる。家族の意向に沿ってサービスが提供できるようになっている。入居者の状況は、電話や手紙で伝えたり、面会時にはきめ細やかに報告されている。苦情等については、真摯に受け止め、サービスの方法を再検討している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが商店街の中にあるので、食材の買い物などは毎日商店街でしている。買い物を通して地域の方と交流ができ、入居者は安心して生活ができています。地域の小学校で行われている「ふれあい喫茶」に入居者全員で参加している。自治会には入っていないが、さまざまな形で地域連携がとられている。

評 価 項 目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人・家族の尊重、個別対応を心がけており、共に生活する中で入居者との関係構築、サービスの向上を理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回の全体会議で理念の共有を図っている。また、パート職員に関しては個別にヒアリングの機会を設け、その時に理念の共有を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の買い物は、地域の商店街へ入居者と一緒に出かけて行っている。また、月1回地域の小学校で行われている「ふれあい喫茶」に入居者全員で参加しており、入居者も心待ちにしている。	○	地域の行事等には参加しているが、今後自治会や町内会にも参加することで、より一層地域との連携が深まることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個々にサービス評価を行い、その後管理者と確認しながら全体の評価をおこなった。その結果を踏まえてグループホームの問題点を分析し、それに対する解決策を立て、解決に向けて職員全員で取り組んでいる。	○	職員は個々に問題意識を持ち取り組んでいるが、それらの問題を職員全体で共有させる機会を増やすことで、更に効果的な改善に繋げることを期待したい。

事業所名:グループホームたのしい家平野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。メンバーは職員、家族、自治会長、民生委員に参加してもらっている。会議では入居者の現状や行事についての報告を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携の必要性は感じているが、現在のところ十分ではないと感じている。入居に空きが合った場合や事故の際の報告を行った折に、アドバイスをもらっている。	○	今後運営推進会議などにも参加してもらえ関係づくりを期待したい。また、事業者ネットワークを通して市町村への働きかけについても期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時に入居者の様子を伝えるようにしている。行事などの連絡は文書で郵送している。また、その都度電話連絡を行っている。金銭管理については1か月に1回行っている。	○	今後も家族と連絡を密に取り、様々な行事や取り組みに協力してもらえ関係づくりを継続することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの玄関先にご意見箱を設置し、家族の思いを汲みとるようにしている。また、面会の際にも家族の意見を聞くようにしている。出た意見については月1回行っている全体会議で周知し改善策を話し合っている。クレームに対してはマニュアルに従って処理している。	○	将来的に家族会を設け、その中で家族の意見を出し合える環境を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際は、直接家族に会って伝えるようにしている。離職は、入居者のダメージになると認識し、配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に本部において研修を受けている。その後は社内研修・社外研修があるものの、日々の業務の関係上、全員参加は難しく、参加した職員が他の職員に書面で伝達している。	○	書面による伝達だけでなく、グループホーム内における伝達研修の検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内にはグループホームの相互ネットワークはなく、今後グループホーム連絡会のようなネットワークを構築したいと考えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を、「サービス開始時において安心して入居できる効果的な方法」として認識しており、希望する入居者に対して実施している。これにより、入居者は安心してホームでの生活ができている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である入居者から、職員は昔の遊びやレクリエーション、部屋の掃除の方法など多くのことを学んでいる。共に支えあい、学びあうことで信頼関係が構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個別援助計画が作成されている。本人や家族の意向が計画に反映できるよう配慮されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成については、一人ひとりがその人らしく暮らすために、本人、家族の意向を確認し、職員と連携をとりながらケアマネジャーが作成する仕組みになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、短期目標は3か月で、状態に変化があれば随時に見直しが行われており、その都度、介護計画の評価を記録に残している。見直しは職員全員で行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって馴染みの物を持参することで、馴染みの環境づくりや職員との馴染みの関係づくりにつなげている。地元地域で暮らしているような環境づくりを目指している。事業所の機能を生かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は本人や家族が話し合っ決定している。グループホームの近隣にも医院があり、変更を希望された場合は対応している。2週間に1回の往診が行われている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時の契約を交わす際に重度化や終末期のことについて話し合っている。ホームでの見取りを希望される場合は、看取り対応ができるが、現在、看取りの事例はない。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>新任職員は入社時に法令遵守についての教育を受けている。その際プライバシーの保護についても研修受け、実践している。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームでの生活の大まかな流れは決まっているが、なるべく個人のペースを大切にしている。その人の希望に沿った支援を心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に、本人の嗜好について本人や家族から確認している。食事の準備や後片付けは将来的にできたらいいと考えている。嫌いなものがあれば、メニューを変更することができる。食事中は会話を楽しみながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回と設定されているが、時間帯は17時までの日中であれば、自由に入浴することができる。同性介護への配慮も行われており、入浴を楽しめるように支援している。	○	夜間の入浴を希望された場合に対応できる体制についての検討を期待したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、入居者ごとの役割や楽しみごとを見つけ、季節行事やお誕生日会などを行うことでも気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日近所の商店街等に外出している。また、外食の機会も設けており、最近ではお好み焼き屋などに出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は鍵をかけていなかったが、帰宅願望の強い入居者が外出して帰れなくなったことがあったため、現在は安全のために玄関のみ鍵をかけている。建物内の移動は自由に行える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は半年に1度、消防署員に来てもらっている。その他の災害に対しても必要性は感じている。火災時の対応については、マニュアルを作成している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりに対して水分摂取状況を記録し、必要な水分が取れているかをチェックしている。食事摂取量は、毎回記録され、栄養摂取状態が確認されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりにとって心地のよい空間が作られている。共有スペースは、ゆったりしていて、心地のよい環境が作られている。椅子やテーブルが置かれ、自由に使用できるようになっている。季節感が感じられる掲示物がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自由に私物を持ち込むことができる。実際に見学時もベッドや家具は本人が使い慣れたものを使用していた。また、カーテンも好きな色・柄を使用しており、心地よい環境づくりがなされていた。		

※  は、重点項目。